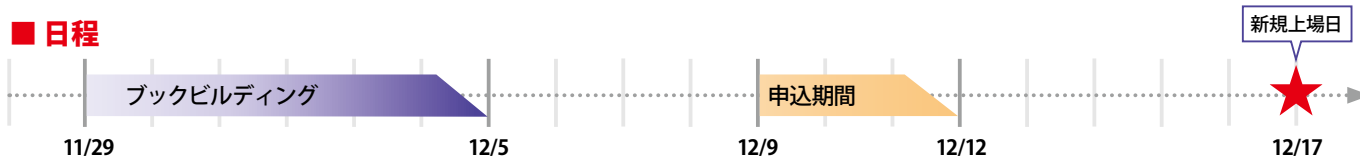


IPO銘柄 アズマハウス (3293・JASDAQ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹証券
3293	100株	公募: 55.00万株 売出: 57.50万株 (OA16.87万株)	1,500円~1,600円 (5.8倍)	野村証券

■ 日程



和歌山県を地盤に一次取得者層を主対象とした住宅を販売

■ 事業内容

和歌山県を地盤に戸建住宅分譲、注文住宅などを手掛ける。ローコストでデザイン性も重視した「Villetta (ヴィレッタ)」、「Basic (ベーシック)」のほか、長期優良住宅認定制度に標準で対応する「楽しい家」、太陽光発電システムなどエネルギーマネジメント機能を装備した「優しい家」などのブランドを展開。販売は地盤の和歌山県和歌山市を中心に5店舗、堺市に1店舗の計6店舗ある支店を通して、一次取得者層をメーンターゲットに展開している。このほかにマンション、テナント、駐車場などの不動産賃貸事業、賃貸アパートなどの提案型建築を行う土地有効活用事業、ホテル事業も展開する。14年3月期第2四半期累計(13年4~9月)の売上高構成比は不動産・建設事業が86.6%、不動産賃貸事業が9.7%、ホテル事業が3.7%。

■ 特徴

「Villetta」、「Basic」は本体価格600万円からという低価格設定が武器で、さらに太陽光発電とオール電化を付加した880万円の家も用意。低価格で、かつ時代にマッチした様々なライフプランに対応している。

アナリストコメント

■ 定量分析

14年3月期の非連結経常利益は前期比23.2%増の15億300万円を計画する。超低金利住宅ローンの後押しもあって一時取得者層を中心に根強い住宅需要が続く。消費増税前の駆け込み需要も期待されており、当面は堅調な業績推移が見込めそうだ。

■ 定性分析

かつて住宅関連は存在感の乏しいセクターだったものの、アベノミクス政策による景気浮揚期待を背景に株式市場で注目を集めているセクター。消費増税前の駆け込み需要も期待されて久しい。ただ、地方企業という点はIPOではややネガティブ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約21億円。軽量級とはいえない水準ではあるが、株主上位が経営一族で占められているため公開株式以外の株券が市場に流出する可能性は低い。一方、年末に向けてIPO案件が立て込んできたことは懸念材料。(小泉健太)

■ 類似企業

アズマハウス(3293・JASDAQ)	予想PER5.8倍 (仮条件上限)
サンヨーホームズ(1420・東証2部)	予想PER7.8倍
グランディハウス(8999・東証1部)	予想PER6.0倍

■ 引受証券

野村証券、SMBC日興証券、みずほ証券、岡三証券、岩井コスモ証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
12年3期(実績)	9,597	—	954	—	604	—	188.8	—
13年3月期(実績)	10,013	—	1,220	—	757	—	236.6	—
14年3月期(会社予想)	11,500	14.8	1,503	23.2	929	22.7	274.9	70.0

※ 12年3月期は連結決算。13年8月に株式分割(1株→50株)を実施。12年3月期および13年3月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
12年3月期	66,000	19,314	8,249	60	2,577.8	42.7	12.5
13年3月期	66,000	20,683	9,075	67	2,824.6	43.9	8.7

※ 12年3月期および13年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	東 行男	1,800,000	51.53
2	東 優子	650,000	18.61
3	東 絹子	500,000	14.31
4	東 祐子	125,000	3.58
5	東 さゆり	125,000	3.58
6	アズマハウス	100,000	2.86
7	アズマハウス社員持株会	13,000	0.37

経営陣

役職	氏名
代表取締役会長	東 行男
代表取締役社長	曾和 勝彦
専務取締役 総務部管掌総務部長	東 優子
常務取締役 営業部、建設部、開発賃貸部、土地有効活用部、ホテル部管掌ホテル部長	九鬼 章郎
取締役 管理部管掌管理部長	西田 明美
監査役	真川 幸範
監査役(非常勤)	源井 洋之
監査役(非常勤)	田中 昭彦

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering) : 新規株式公開。

※2 ブックビルディング : 引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。